



TITLE:

現代的保險ノ成立(二)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

---

CITATION:

小島, 昌太郎. 現代的保險ノ成立(二). 經濟論叢 1917, 5(2): 220-239

ISSUE DATE:

1917-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127245>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第 卷五第

行發日一月八年六正大

## 論 說

營業稅ノ賦課スハ營業ノ範圍……………法學博士 神戶 正雄

純粹資本(資金)ト資本財……………法學博士 河上 肇

中壽ノ說(三)完……………法學博士 財部 靜治

現代的保險ノ成立(三)……………法學士 小島昌太郎

## 時事問題

製鐵業ノ獎勵……………法學博士 戸田 海市

支那ノ裁厘加税問題……………法學士 木村増太郎

## 雜 錄

歐洲戰亂ノ南米ニ及ボ影響……………山本美越乃

ゆゑニテ民族運動(二)……………米田庄太郎

福島山形二縣ノ製絲業……………法學士 河田 嗣郎

臺灣人口統計十年報ヲ讀ム……………文學博士 内田 銀藏

戰時利得稅ノ諸例……………法學博士 神戶 正雄

學界ノ巨人シヨモラ一逝ク……………法學博士 神戶 正雄

## 現代的保險ノ成立(二)

小島昌太郎

### 序

言

第一 現代的保險成立期

前號所載

第二 現代的保險成立以前ニ於ケル海上保險

第三 現代的保險成立以前ニ於ケル生命保險

本號所載

第四 現代的保險成立以前ニ於ケル火災保險

第五 現代的保險ノ成立

次號掲載

## 第三 現代的保險成立以前ニ於ケル生命保險

生命保險ノ起源モ海上保險ト同様ニ之ヲ古代ノ制度ニ求ムルコトガデキル。乍併古代ノ生命保險の制度ヨリ現代の生命保險ニ進化シタル過程ハ、海上保險ガ冒險貸借ヨリ發展ノタルガ如ク、シカク系統的ナル經過ヲ示シテキナイ。蓋シ海上保險ナルモノハ海外貿易ニ隨伴スルモノナルガ故ニ、海外貿易ニ付キテ權利ヲ握レル國民ノ間ニ一旦之ガ成立スレバ、其國民ト貿易關係アル

諸國ニ直チニ傳播シテ國際的ノモノトナルベキ性質ヲ有シテキル。彼ノ冒險貸借ナルモノハ先ヅ何ゾレノ古代國民ニ生ジタルカ詳カナラザレドモ、印度及びびるにあつた古代之ガふえにきあ人 Phoenicians 又ハろうじん Rhodians ノ如キ當時海外貿易上ニ最ニ活躍シタル國民ニヨリテ地中海沿岸諸國ニ傳ハリタルハ推察スルニ難カラザル所デアル。之ト同ジク、中世、伊太利ノろんばるぢあ人が海外貿易ニ就イテ覇權ヲ有セシ時代ニ、彼等ノ手ニヨリテ冒險貸借ヨリ分離獨立シタル原始の海上保險モ、亦彼等ノ貿易ニ追隨シテ彼等ノ到ル所ニ行ハレ、歐洲海商國民ニ普遍ナル商慣習トナツタノデアル。勿論ろんばるぢあ人ノ行ヒシ原始的の海上保險ノ外ニ、別ニ固有ノ様式ヲ以テ海上危險轉嫁ノ方法ヲ行ヒシ國民全クナカリシトハ云ヘナイデアラウ。乍併當時海外貿易ニ就イテハろんばるぢあ人ノ勢力最モ隆盛ナリシガ故ニ、彼ト貿易關係ヲ有セシ國民ニシテ縱ヒ固有ノ危險轉嫁方法ヲ有セシモノアリトスルモ、其國民ハ自然ニ自己固有ノ方法ヲ捨テテろんばるぢあ人行ヒシ原始的の海上保險ヲ採用セザルコト能ハザルニ至ルハ商業關係上止ムヲ得ザル所デアラウ。カクテ海上保險ニアリテハ冒險貸借ヨリ出デテ原始的の海上保險トナリ、更ニ現代の保險ニ發展スル迄略々一元のナル系統ヲ示スコトガデキルノデアル。然ルニ生命保險ナルモノハ、今日ニ於テコソ國際的大發展ヲ遂ゲテ居ルガ、此生命保險ノ起源ト目スベキ制度ハ元ハ寧ロ地方的ナル性質ヲ有スルモノデアツテ、各國民各地方毎ニ其國民性及ヒ其郷土性ニ適シタル様式ノ下ニ行ハレ、商業關係又ハ交通關係ニ追隨シテ廣ク各地ニ傳播スベキ性質ヲ有スルモノデハナカツタ。故ニ生命保險ノ起源ト目スベキモノヨリ現代の生命保險ニ至ル間ニハ直接ニ連綿タル系統ナク寧ロ

(1) Ehrenberg, Studien zur Entwicklungsgeschichte der Versicherung. (Zeitschr. f.d.g. Versicherungs-Wissenschaft. 1901) S.374.

只間接ナル影響ヲ認メ得ルニ過ギナイノデアル。之レ生命保險ト海上保險トガ現代の保險ニ進化スルノ経路有様ヲ異ニスル所以デアル。但シ後ニ述ブルガ如ク兩者ガ一度相影響シテ現代の保險トナリタル以後ハ、生命保險モ亦地方的性質ヲ脱シテ海上保險ト等シク國際的ノモノトナツタコトハ言フ迄モナキ事柄デアル。

右述ブルガ如ク、古代又ハ中世ノ制度ト現代の生命保險トノ間ニハ直接ノ系統の連絡ナク、寧ロ生命保險ナルモノハ現代の保險成立ト共ニ成立シタルモノナリト云フベキモノデアル。乍併此現代の生命保險ノ成立ヲ大ニ助ケタルモノハ英國ニ於ケル友愛組合 Friendly Society ノ制度デア  
ルカラ、或點ニ於テハ生命保險ハ此友愛組合ノ相互扶助制度ヨリ進化シタルモノト云ヘナイデモ  
ナイ。而シテ此友愛組合ノ制度ハ又彼ノざる<sup>2)</sup> Guild, Guild, Zunft ノ制度ヨリ轉嫁シタルモノデ  
アルカラ生命保險ノ起源ハざる<sup>3)</sup>ニ在リト云フ學者モアル。勿論現代の生命保險成立以前ニ於テ  
生命保險の役伎ヲ演ゼシ主ナルモノハ此ざる<sup>4)</sup>及ビ之ニ次イテハ友愛組合デアツタ。故ニ此意味  
ニ於テざる<sup>5)</sup>ヲ以テ生命保險ノ起源デアルト看做スハ固ヨリ差支ガナイ。乍併ざる<sup>6)</sup>又ハ友愛組  
合ノ制度、ソ、ハ、モノヨリ生命保險ナルモノガ發達シタルモノニアラザルコトハ注意スベキ事柄デア  
ル<sup>7)</sup>。又或ハ生命保險ハ第十四世紀伊太利ノ都府ニ於テ原始的の海上保險ガ成立シテ後凡ソ一世紀ヲ  
經テ成立シタルモノデアツテ、其始メハ海上保險ノ一部トシテ行ハレ、海上保險ト共ニ歐洲諸國  
ニ擴リ、第十八世紀ニ至リテ之レヨリ分離獨立シタルモノデアルト説ク學者モアル<sup>8)</sup>。實際、當時  
ノ海上保險業者ハ船舶積荷ノ保險ヲ引受クルト共ニ、又其ノ船舶ニ乗組ム人類ノ身體生命ニ對ス

2) A. F. Jack, An Introduction to the History of Life Assurance, (London 1912); M. Gebauer, Die Sogennante Lebensversicherung, (Jena 1895)  
S. 47ff. S. 64; A. Loewy, "Lebensversicherung" im Versicherungsglossikon, S. 760.  
3) Ehrenberg, a. a. O., S. 107.  
4) C. Crawley, The Law of Life Insurance, (London 1882) pp. 1-18.

ル保險ヲ引受ケタルコトハ疑ナキコトデアルガ、此海上保險業者ノ引受ケシ身體生命ニ對スル保險ヨリ直接ニ現代的生命保險ガ發達シタノデハナイ。海上保險者ガ身體生命ニ對スル保險ヲ引受ケテオツタト云フコトハ、只友愛組合ノ行フ相互扶助制定ナルモノモ亦之ヲ海上保險ト同様ニ保險ト云フ仕組ニヨリテ行ヒ得ベキコトヲ世人ニ教ユル一助トナツタニ過ギヌノデアル。

斯クノ如クざるどヤ友愛組合ノ相互扶助事業又ハ海上保險者ノ行ヒシ身體生命ニ對スル保險等ハ、現代的生命保險ノ直接ノ前身タルモノニハアラザレドモ、其成立ニ對シテハ各々大ナル影響ヲ及ボシタルモノデアルカラ、以下簡單ニ是等ガ生命保險ノ成立ニ及ボシタル影響ヲ説明スルコトトスル。

## 二

組合組織ニヨリテ相互的ニ組合員及ビ其家族ノ疾病災害死亡等ノ際ニ一定金額ヲ給付スル仕組ハ古代ニ於テハ之ヲ羅馬ノこれぎあ Collegia Tenuiorum ノ制度ニ見ルコトガデキル。<sup>5)</sup> 次イデ中世ニ至リテハ歐洲各國ニ存在セシ各種ノぎるどハ皆多少其目的ノ一部分トシテ此事業ヲ行フタ。彼ノ商人組合 Merchant Guild 及ビ職人組合 Craft Guild ハ其主タル目的、組合員ノ職業上ノ利益ノ増進并ヒニ其保護ニアリシハ勿論ノコトナルガ、是等ニアリテモ共同ノ醵金ヲ以テ組合員ガ不幸ニ際シタル場合ニ其費用ヲ支辨シ又遺族ヲ扶助スルト云フコトヲモ行フタ。<sup>6)</sup>

此ぎるどノ制度ハ中世都府經濟ノ時代ニハ個人ノ職業上ノ利益ヲ保護増進スルニ甚ダ適當ナルモノデアツタカラ、歐洲各國ニ廣ク行ハレタガ、近世の國家ガ成立シ國民經濟ノ世トナルニ及ン

5) Jack. *ibid.* pp. 15 sqq.; Gebaur, a.a. O., S. 37ff.

6) Jack, *ibid.* pp. 72 sqq.

デ、漸ク時勢ニ適セザルニ至リ次第ニ衰亡シタ。乍併從來きるどガ其事業ノ一部トシテ冠婚葬祭ノ際ニ共同的ニ金錢上ノ扶助ヲナシタト云フ事柄ハ、國民經濟ノ世トナリテモ其必要少シモ減セズ、否益々之ガ必要ヲ感ズルニ至ツタカラ、專ラ此事柄ヲ目的トスル所ノ仕組ガ生レタ。此組合ハ獨逸ニ於テハ之ヲ扶助組合 Hilfskassen ト云ヒ英國ニ於テハ友愛組合 Friendly Society ト云フ名ニヨリテ一般ニ知ラレテ居ル所ノモノデアル。

獨逸ノ扶助組合ト英國ノ友愛組合トハ多少其趣キヲ異ニスルガ大體ニ於テハ同様ナルモノデア。併シ後ニ現代の生命保險ノ成立ニ大ナル影響ヲ及ボセシモノハ寧ロ英國ノ友愛組合デア。カ、茲ニハ英國ノ友愛組合ニ就イテノミ述ベル。英國ノ友愛組合ハ「親善ナル仲間ノ組合」"Society of good fellowship" ト云ハレ、組合員相互ノ經濟上ノ扶助ヲ目的トスルノミナラズ、又其社交上ノ親睦ヲモ目的トシタ。即チ組合員ハ義務トシテ一定ノ入會金及ヒ定期ノ醵金ヲナスノミナラズ又時トシテハ任意ニ寄附金ヲモナシ、組合ハ是等ノ資金ヲ以テ組合員及其家族ガ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ヲ給與シ、死亡シタルトキハ葬式費用ヲ支辨シ、鰥寡孤獨ヲ養ヒ、結婚出産ノ場合ニハ金錢上ノ扶助ヲナス等ヲ主タル事業トシテオツタ。而シテ組合員ハ之ニ附隨シテ毎年組合ニ於テ舉行スル祭禮ニ參加スルノ義務ヲ負ヒ、且ツ組合員又ハ其家族ニ死亡者アルトキハ葬式ニ列スルノ義ヲモ負擔シタ。

友愛組合ハ始メハ右述ブルガ如ク甚ダ一般のナル扶助ヲ目的トシタノデア。後ニハ次第ニ其目的ヲ限局シテ組合員ガ死亡シタル時ニ其葬式墓碑等ニ要スル費用又ハ寡婦孤兒ノ生活ニ要ス

ル費用ヲ共同シテ支辨スルコトヲ唯一ノ事業トスルニ至ツタ。而シテ友愛組合ハ英國各地ニ設立セラレ、其數モ非常ニ増加シタガ、右ノ如ク其事業ヲ局限スル様ニナツテ以來反ツテ其經營ハ困難トナツタ。蓋シ死亡ノ場合ニ於ケル金錢上ノ扶助ヲ只其事業ノ一小部分トシテ行ヒシ時代ニハ、組合員ノ死亡ノ爲メニ支出スル金額ハ組合ノ全會計ニ於テ單ニ僅少ノ部分タルニ止リタルガ故ニ、此金額ヲ確實ナル計算法ニヨリテ算出スルノ必要モナカツタ。然ルニ、組合員ノ死亡ノ場合ノ扶助ヲ其主タル目的トスルニ至ツテハ、確實ナル基礎ヲ有スル計算法ニヨリテ之ニ要スル金額ヲ算出シテ置クコトガ極メテ必要デアル。當時ノ友愛組合ハ斯ノ如キ事柄ニ付イテハ至ク何等ノ經驗ナク、殆ト至ク其計算ノ方法ヲ持タナカツタ。從ツテ組合員ヨリ徵收スル規定ノ贖金ヲ以テシテハ、扶助金ノ支給ニ差支ヲ生ズル様ニナツテ、次第ニ其經營ガ困難ニナツテキタ。之ガ第十七世紀後半ヨリ第十八紀ノ始メニ至ル頃ノ友愛組合ノ有様デアル。

### 三

然ルニ恰モ此時期ニ至ツテ人類ノ生死ニ關スル數理統計ノ學問成立シタカラ、從來友愛組合ノ行ヒシ相互扶助ノ事業ヲ、此數理の基礎ニヨリテ營メントスル企劃起リ、此ニ現代の生命保險ガ成立スルコトトナツタノデアル。故ニ余ハ之ヨリ方面ヲ代ヘテ些カ此新ラシキ學問ノ由來ヲ述ブレコトトスル。

人類ノ生死ニ關スル數理の原則ヲ知ルノ必要ハ、友愛組合ノ經營ニ付イテヨリモ更ニ古ク、又更ニ切ニ、年金事業ノ經營ニ付テ感ゼラレタル所デアツタ。抑モ年金事業ハ生命保險ノ未ダ存在セ



ザリシ時代ニハ、恰モぎるどノ扶助事業ガ主トシテ死亡保險ノ役目ヲ盡シタルト同様ニ、之ハ生存保險ノ役目ヲ致シタモノデアル。而シテ此年金事業ナルモノハ既ニ第八世紀ノ頃ヨリ寺院ノ一事業トシテ行ハレ。後、利息禁止論起ルニ及ンデ一時蹉跌ノ状態ニアツタガ、第十五世紀ニ至リ寺院及ビ法王廳ノ財政ガ窮境ニ陷ルニ至ツテ反ツテ彼等ニヨリテ盛ニ營マル様ニナツタ。所謂もんです・びえたちす *Montes pietatis* ナルモノ即チ是デアル。此もんです・びえたちすト云フモノハ、最初出セラレタモノデ、寺院自ラノ財政上ニ利用スルガ爲メノモノデハナカッタノデアルガ、後、寺院ガ財政上困窮スルニ至ツテ、自然之ヲ利用スル様ニナリ、最初ノ目的ハ遂ニ放擲セラレタノデアル。 年金事業ハ寺院ガ之ヲ財政上ニ利用シタルノミナラズ、伊太利ノ諸都府先ツ概ネ之ニ倣ヒ、次デ其法歐洲一般ニ擴ガリ都市モ國家モ競ウテ年金ヲ財政上ニ利用スル様ニナツタ。カクテ年金事業ハ中世ノ都府並ビニ國家財政上重要ナル役目ヲ演ジタモノデ、一個人モ亦年金事業ニ手ヲ出ス様ニナツタガ、之ハ財政上ノ都合ト公益上ノ理由トニヨリ禁止セラレタル所モアル。如斯普通ノ方法ニヨル年金事業ガ盛行スルト共ニ又之ニ類似シタルモノ、又ハコレノ特殊ナルモノモ考案セラレタ。即チにゆるんベくるニ於テハほるつしゆへる *Berthold Holtzscher* ガ市長タリシトキ一ノ強制据置金制度ヲ案出シ、すとらすぶるくニ於テハおふれひと *Georg Obrecht* 之ニ類似シタル任意据置金制度ヲ案出シタ。此据置金制度ハ共ニ前述ノもんです・びえたちすノ制度ヨリ思付イタモノデアルト云フコトデアルガ、遂ニ實施セラルルニ至ラナカッタ。又なほりノ醫家とんち *Lorenzo Tonti* ハ此二人者ノ考案ヲ參考ニシテ更ニ一層巧妙ナル仕組ノ年金制度ヲ作り上ゲタ。此制度ハ彼ガ佛國ニ招聘セラレタル後、政府ニ献案シタルモノニシテ一六八九年始メテ佛國ニ行ハレ、後歐洲各國ニ

實施セラレタル一ノ公債年金制度デ、とんちん法 Touth ト謂ハルル所ノモノデアル。乍併是等諸種ノ年金事業ハ何ツレモ其最モ必要トスル人類生死ニ關スル數理的ノ基礎ヲ缺キシガ爲メニ遂ニ失敗ニ歸セザルヲ得ナカツタ。 とんちん法ハ比較的數理的基礎ヲ要セスシテ行ハルル様ニ仕組マレテアルガ、併シ此法ニ於テモ年金受與者ノ負擔ヲ決定スルモノハヤハリ最モ長ク生殘リタルモノノ年輪テアルカラ、生死數理統計ガ具備セザレバ之ガ爲メ此事業ノ失敗ヲ招クハ明デアル。

然ルニ、恰モとんちんガ佛國政府ニ獻策シツツアリシ時代、即チ第十七世紀ノ中葉ニ至リ『偶然』ニ關スル學說論議セラレ、所謂『蓋然率論』 Doctrine of probabilities; Wahrscheinlichkeitsrechnung ナルモノガデキ上ツタ。而シテ此學說ヲ初メテ人類ノ生死ノ研究ニ應用スルコトヲ試ミタルモノハ和蘭ノ大政治家ニシテ且ツ學者タルじやん・で・うゐつと Jan de Wit (Johan de Witt) デアル。彼ハ一六七一年、生死數理統計ニ基キタル年金額ニ關スル調査書ヲ政府ニ提出シタ。乍併彼ノ研究ハ如何ナル理由ニヨリテカ世ノ注意ヲ惹カズ、此方面ノ研究ノ進歩ヲ助クルコトナカツタト云フコトデアル。生死ニ關スル數理統計ノ研究ガ盛行シ且ツ其最モ進歩ヲ遂グタルハ英國デアル。而シテ之ガ完成ニ與ツテ功勞最モ多キモノハ彼ノ有名ナル星學者はあれい Edmund Halley ノ人デアル。彼ノ著書<sup>⑧</sup>一度出デテ以來生死數理統計ノ學長足ノ進歩ヲナシ、學者ノ研究相踵イテ發表セラレタガ、就中最モ有名ナルハしんぶそん Thomas Simpson ノ『年金并ヒニ生殘年金ニ關スル原理』デアル。

#### 四

右述ブルガ如ク人類ノ生死ニ關スル數理統計の研究ハ第十七世紀末ヨリ第十八世紀ノ初メニ亘

- (8) An estimate of the degrees of the Mortality of Mankind, drawn from curious Tables of the births and funerals of the City of Breslau; with an attempt to ascertain the price of annuities upon lives. 1693.
- (9) Doctrine of Annuities and Reversions. 1742.

ル時期ニ於テ次第ニ其完成ニ近ツイタノデアル。而シテ此時期ハ恰モ前ニ述ベタルガ如ク友愛組合ノ相互扶助事業及ヒ國家并ヒニ地方團體ノ年金事業ガ其行詰リノ狀態ニアルトキデアツタ。故ニ友愛組合ノ事業モ年金事業モ今ヤ此ノ新ニ成リ立タル生死數理統計ノ學問ヲ基礎トシテ新生面ヲ開クノ機運ニ向ツタノデアル。而シテ友愛組合ノ扶助事業ガ此學問ノ力ニヨリテ確實ナル基礎ノ上ニ立チ資本主義的ニ經營セラルルニ至ツテ此ニ初メテ現代の生命保險ガ成立シタノデアル。而シテ此扶助事業ヲ資本主義的ニ經營セントスルノ動機ヲ刺戟シタルモノハ、第十八世紀前半期ニ於ケル海上保險ノ會社の經營ノ成功デアル。

## 五

海上保險ノ生命保險ニ及ボセシ影響ハ右述ブルガ如ク前者ノ會社の經營ノ成功ガ後者ノ資本主義的經營ヲ促シ、以テ現代の生命保險ノ成立ヲ致サシメタルヲ最モ重シトナスノデアルガ、此外尙海上保險ト生命保險トノ間ニハ多少ノ關係ガアルカラ茲ニ之ヲ述ベネバナラヌ。而シテ之ヲ述ブル爲メニハ再ビ原始的の海上保險ニ立歸リテ説明スルノ必要ガアル。

抑モ冒險貸借ハ前段ニ於テ述ベタルガ如ク、元來船舶又ハソノ積荷ニ關シテ行ハレタルモノデアル。故ニ冒險貸借ニ含マレシ危險轉嫁作用ガ、ソレヨリ分離獨立シテ原始的の海上保險トナリタル最初ニ於テハ、海上保險ノ客體タリシモノハ言フ迄モナク船舶又ハ積荷ノミデアツタ。乍併當時ノ所謂積荷ナルモノノ中ニハ普通ノ商品ノ外ニ奴隸モ含マレテ居タコト明デアル。サレバ人類ノ生命ニ對スル保險ハ先ツ此ノ奴隸ノ海上保險ニ始マルト云フコトガデキヤウ。乍併奴隸ナルモ

ノハ普通商品ト同ジク經濟客體デアツテ經濟主體デナイカラ、此奴隸、對スル保險ト今日ノ生命保險トハ根本ニ於テ其趣キヲ異ニスルコトハ敢テ説明ヲ要セザル所デアル。今日ニ於テモ移民會社ハ移民ニ對スル貸渡金取替金等ノ債權取立ヲ保全センガ爲メニ、航海中ニ於ケル移民ノ生命ニ對スル危險ヲ海上保險ニ附クルコトガアル。乍併之ハ言フ迄モナク生命保險ニアラズシテ債權保全ノ保險即チ一種ノ損害保險デアル。中世ノ海上保險者が引受ケタル奴隸ノ保險モ亦全ク之ト其趣旨ヲ同フスルモノデアツテ、普通商品ニ對スル保險ト何等異ル所ナキ損害保險デアル。故ニ嚴格ニ言ヘバ之ハ未ダ生命保險ノ範圍ニ屬スルモノデナイ。乍併商品ト等シキ奴隸トハ言ヘ、一度海上保險者が人類ノ生命ニ對スル保險ヲ引受ケタル以上ハ、此保險ガ次ニ普通ノ自由人ノ生命ニ及ブニ至ルハ發達ノ自然ノ經路デアル。但シ自由人ニ對スル保險ハ、最初ハ航海中ノ普通生命危險ニ對シテ行ハレタノデハナクテ贖回金 *Ransom* ニ對スル保險トシテ行ハレタノデアル。蓋シ中世ニ於テハ野蠻人殊ニ土耳其人ハ海賊又ハ強盜トシテ近東地方ノ海陸ニ跋扈シ、旅人ヲ捕禁シテ巨額ノ贖回金ヲ支拂ハザレバ、或ハ其生命ヲ斷チ或ハ奴隸トシテ賣拂フト云フ風習ガアツタ。故ニ當時異國ニ旅行スルモノ殊ニ船長乗組員ノ如キハ一朝盜賊ノ手ニ落チタル場合、速ニ巨額ノ贖回金ノ來リテ自己ヲ救フノ用意ヲ備ヘネバナラナカツタ。自由人ニ對スル保險ハ即チカクノ如キ場合ニ保險者が贖回金ヲ支拂フト云フ形ニ於テ最初成立シ<sup>10)</sup> 此贖回金ノ保險ヲ經テ次ニ海難ニヨル災害ニ對スル保險トナリ、此形態ノ艦船積荷ノ海上保險ニ隨伴シテ第十五世紀ノ頃歐洲海商國民間ニ擴ガリシモノデアル。故ニ中世ノ海上保險者ノ引受ケシ生命危險ニ對スル保險ハ、今日

10) Gebauer, a. a. O., S. 6r.; Jack ibid. p. 199

ノ旅行災害保險ノ如キモノデ、普通ノ死亡ニ對スル保險デハナカッタ。<sup>11)</sup>而シテカクノ如キ保險ハ二ツノ目的ニ利用セラレタ。一ハ債權者が債權ヲ保全センガ爲メニ債務者ノ身體生命ニ關シテ、之ヲ締結スルノデアツテ、<sup>12)</sup>二ハ他人ノ生命ニ關シテ賭博ヲナス目的ニ利用セラレタノデアル。而シテ前者ノ方ハ正當ナル契約デアルカラ、次ニ説明スルガ如ク、第十六七世紀ノ歐洲諸國ノ法律ガ一般ニ生命ニ對スル保險ヲ禁止シタル時代ニ於テモ尙二三ノ國例ヘバ佛蘭西・英吉利西ニ於テハ例外トシテ之ヲ認メテオツタ。<sup>13)</sup>

右ニ述ブル所ハ海上保險者ノ引受ケン航海中ニ於ケル身體生命ニ對スル保險デアル。乍併陸上ニ於ケル人類ノ身體生命ニ對スル保險モ亦海上保險ノ影響ヲ受ケテ行ハレタ。而シテ之モ亦海上ニ於ケルト同様ニ最初ハ奴隸ノ身體生命ニ對シテ行ハレタノデアル。蓋シ航海中ノ奴隸ノ保險ヨリ思ヒ付カレタモノデアラウ。即チ第十五世紀頃ノ迄のあの法律ニ從ヘバ、他人ノ所有ニ屬スル奴隸ヲ妊娠セシメタル責任者ハ重キ罰金刑ヲ科セラレ、若シ其奴隸ガ之ガ爲メ死亡シタルトキハ更ニ其金額ヲ倍加セラルルコトニナツテオツタ。且ツ此場合ニ於テハ奴隸所有者ガ被害者ト認メラレタルガ故ニ、加害者ハ所有者ニ對シテ一定金額ヲ支拂ヒ、之ヲ以テ爾後其妊娠ノ結果如何ナルコトガ起ルトモ民事上一切ノ責任ヲ免ルト云フ契約ヲ結ブ風習ヲ生ジタ。而シテ此ノ如キ契約、幾何モナク保險契約ノ形式ヲトル様ニナツタノデアル。べんさハ此種ノ契約書ニ通ラぜのあの文庫ヨリ發見シテ公表シテ居ル。<sup>14)</sup>一八一四三〇年十一月十五日附、他ハ一四六七年一月二十三日附デアル。此ノ如キ妊娠ニ關スル保險契約ハ聽テ自由人ニ及ビ、次デ他人ノ生命ニ對スル普通ノ生命危險ニ對スル保險トシテ行ハルル様ニナツタ。

11) Crawley, *ibid.* pp. 3, 10.12) Crawley, *ibid.* p. 10.13) Jack, *ibid.* pp. 200, 204; Crawley, *ibid.* p. 12.14) Jack, *ibid.* pp. 201, 202.

而シテ之ガ他人ノ生命ニ對スル保險トシテ行ハルル様ニナツテ以來、彼ノ航海中ノ生命危險ノ保險ガ賭博ノ目的ニ轉用セラレタルト等シク、之レモ亦賭博ノ目的ニ用キラレタ。故ニ之ハ保險ノ名ヲ有スレドモ實ハ眞正ノ保險契約デハナイ。學者或ハ之ヲ保險賭博 Gambling Insurance; Wettersicherung ト云フ。保險賭博ハ初メハ普通人ノ生命ニ關シテ行ハレタモノデアルガ、次第ニ高貴ノ地位ニアル人、例ヘバ法王、皇帝、王侯、大僧正等ノ生命ニ關シテ行ハルル様ニナリ、且ツ廣ク歐洲諸國ニ傳播シテ其弊害甚ダシキモノガアツタカラ、一五七〇年和蘭ノふいりつぶ二世ノ勅令ガ生命ニ對スル保險ヲ絶對ニ禁止シタルヲ初メトシ、一五八八年ノせのあノ法律モ公人ノ生命ニ對スル保險ハ元老院ノ許可ヲ受ケタルモノノ外之ヲ禁止スルコトトシ、諸國ノ法律皆之ニ對シテ否定的態度ヲトル様ニナツタ。<sup>15)</sup> カクノ如ク此賭博保險ハ決シテ眞正ノ保險デナイカラ生命保險成立ノ妨害トコソナリタレ、其發達ヲ促シ又ハ助ケタコトハナイノデアル。而シテ海上保險ヨリ出デタル人類ノ生命ニ對スル保險ハ、前述ノ航海中ノ海員旅客ノ保險ノ外ハ、主トシテ此保險賭博デアルカラ、海上保險ハ此點ニ於テハ生命保險ニ對シテ何等ノ寄與ヲナサズ反ツテ其妨害ヲナシタルモノト云ハナケレバナラス。

以上述フル所ハ勿論現代的保險成立以前ニ於ケル事柄デアルガ、保險賭博ハ現代的生命保險成立以後ニ於テモ尙行ハレタ、又保險賭博ハ實ニ生命保險ニ關シテノミナラズ、又海上保險ニ關シテモ行ハレタ。

## 七

右述ブルガ如ク、海上保險ヨリ分歧發生シタル人類ノ身體生命ニ對スル保險ハ、眞ノ保險トシテ發達セザルノミナラズ、反ツテ邪道ニ逸レテ保險賭博トナリ、眞實ナル生命保險ノ成立進歩ヲ

15) Gebauer, a. a. O., S. 60ff; Crawley, ibid. p. 4; Jack, ibid. p. 203.

寧ロ妨害シタモノデアル。然ラバ海上保險ハ生命保險ノ成立ニ全ク何等貢獻スル所ナカリシカト云フニ、之レ決シテ然ラズ。後第十八世紀ニ於テ、友愛組合ノ行ヒシ相互扶助事業ガ其經營甚ダシク困難ニ陥リタルトキニ、恰モ當時成立シタル人類生死ニ關スル數理統計の研究ノ成果ヲ基礎トシテ、此相互扶助ノ事業ヲ獨立シタル一ノ企業タラシムルニ至リシ動機ヲナシタルモノハ、即チ之亦當時成立シタル現代的海上保險ノ資本主義的ナル大經營ソノモノデアル。故ニ海上保險ハ此點ニ於テハ生命保險ノ成立ニ大ナル貢獻ヲナシタルモノト云ハネハナラス。

余ハ既ニ現代的保險成立以前ニ於ケル海上保險ノ沿革及ヒ生命保險類似制度ニ就イテ略述セリ、依リテ更ニ火災保險發達ノ跡ヲ概觀セネバナラス。

#### 第四 現代的保險成立以前ニ於ケル火災保險

現代の火災保險ハ一六六六年ノ倫敦ノ大火ガ動機トナツテ、其後約半世紀ヲ經過シテ漸ク成立シタルモノデアル。之レヨリ以前ニ存在セシ火災保險類似制度ハ、生命保險ノ場合ト同シク、只今日ノ火災保險ノ役目ヲ其當時ニ於テ盡シテキタモノデアルト云フニ止マリ、是等ノ制度ヨリ直接ニ現代の火災保險ガ進化發達シタモノデハナイ。乍併是等ノ制度モ火災保險の思想ヲ表顯シタルモノデアルカラ、火災保險ノ發達ヲ研究スル上ニ於テ、全ク之ヲ無視スル譯ニ行カヌ。故ニ此ニ其概略ヲ述ブルコトトスル。

火災保險類似制度ハ羅馬ノ文明ガ盛ナリシ時代ニハ、未ダ存在セザリシモノデアルト云ハレテ居ル<sup>16)</sup>。火災保險の事業ヲ最モ古ク行ヒタルモノハ、今日世ニ知レテキル範圍内ニ於テハ、一一八年前氷洲 Iceland ニ設立サレタルふれつぶす Hepps ト名ヅクル組合デアラウ<sup>17)</sup>。次デ中世ニ於テハ前段ニ述ベタルざるどハ又皆其事業ノ一部トシテ、組合員ノ家屋カ焼失シタル場合ニハ共同ノ負擔ニ於テ其再建ニ助力シタルモノデアアル。就中火災ざるど Brandstid ナルモノハ、特ニ火災ノ場合ニ於ケル組合員ノ扶助ヲ主タル目的トシテ設立サレタルモノデアツテ、之ハ第十五世紀ノ末又ハ第十六世紀ノ初メ頃ヨリ起リタルモノデアアルガ、一般ニ廣ク各地方ニ存在シタルモノデハナク、只獨逸ノ北部特ニしゆれすゐつひ・ほるしゆたいん及ビはんぶるく地方ニ存在シタルデアアル<sup>18)</sup>。蓋シ同地方ノ家屋ハ當時概ネ木造ニシテ、且ツ氣候ノ關係上大家屋多カリシガ爲メ、カカル特種ざるどヲ必要トシタルデアラウ<sup>19)</sup>。是等ノざるどニ於ケル火災扶助ハ畜ニ不動産ノミニ限ラズ動産ニモ及ボシタルデアアルガ、其扶助ノ方法ハ豫メ一定ノ醵金ヲ積ミ立テテ罹災者ニ建築資金ヲ給付スルノデハナクテ、只組合員タルモノハ火災ノ場合ニ消防搬出等救助ノ勞務ヲ盡シ、且ツ罹災者ニ組合員各自ヨリ木材藁其他日常ノ衣食住ニ關スル必要品ヲ支給スルト云フ方法ヲトツタノデアアル。但シ後貨幣經濟ノ發達トトモニ金錢支給ノ方法モ行ハレタガ、尙實物支給ハ永ク廢レナカツタ。

右述ブル如ク火災ざるどナルモノハ只前述ノ地方ニ行ハレタルノミニシテ、廣ク各地ニ存在シタモノデナイ。又普通ノざるどモ火災ノ場合ノ扶助ヲ行ツテオツタガ之ハ其事業ノ一部トシテ行ツタノデアアルカラ固ヨリ不完全ナルモノモ少クナカツタ。故ニ、火災ざるどノ存在セザル地方、

- 16) K. Domizlaff, Die Feuerversicherung (Berlin 1914) S. 1.  
 17) E.F.Liebig, Das deutsche Feuerversicherungswesen. (Berlin 1911) S. 8-9.  
 Manes, Versicherungswesen. 2 Aufl. S. 351.  
 18) Liebig, a. a. O., S. 9.; Domizlaff, a. a. O., S. 1.  
 19) Ehreuberg, Studien zur Entwicklungsgeschichte der Versicherung.  
 (Zeitschr. f. d. g. Versicherungs-Wissenschaft, 1902) S. 35.



及ヒ火災扶助ノ不完全ナル地方ニハ一種ノ風習ガ行ハレタ。ソレハ罹災者ニ對シテ地方役場又ハ寺院ヨリ罹災證明書 Brandbrief ヲ與ヘ、地方有志者ニ向ツテ再築資金ノ寄附ヲ仰ガシムル風習デアル。之ヲ Brandbettel ト云フ。乍併此風習ハ眞實ノ罹災者ニアラザルモノガ罹災者ヲ裝フテ詐欺ヲ働クノ弊風ヲ生シ、反ツテ眞實ノ罹災者ヲ救助スル目的ヲ達シ得ザルニ至ツテ遂ニ廢絶シタ<sup>20)</sup>。

## 二

斯ノ如クざるどノ扶助モ罹災證明書ノ風習モ火災保險トハ隨分縁遠キモノデアツタ。然ルニ一五九一年はんぶるぐ市ニ起リタル火災組合ハ稍火災保險ニ類似スルモノト云フコトガデキル。此組合ハ同市所在ノ釀造所所有者一百人が釀造所火災ノ場合ニ再築資金ヲ獲ンガ爲メ且ツハ不動産信用ヲ保全センガ爲メニ作ツタモノデ、其契約ヲ Feuerkontrakt ト名ヅケタルヨリ、一般ニ其組合自身モ Feuerkontrakt ノ名ニヨリテ知ラレテキル。而シテ其組合契約ニヨレバ填補金ハ絕對ニ罹災建造物ノ再築ニ用フベク、他ノ用途ニ使用スルヲ禁ジ、全燒ノ場合ハ一千たあらあヲ限度トシテ支給シ、一部燒失ノ場合ニハ専門家ノ鑑定ニ從ヒテ填補金額ヲ定メ、填補金ハ罹災ノ度毎ニ組合員ヨリ徵集スルノデアル<sup>21)</sup>。

此火災組合ノ事業ハ比較的 성공ニ近ク、其成績有望デアツタカラ、其後次第ニ此種組合増加シタ。而シテ一六七六年ニ至リ、はんぶるぐ所在ノ此種組合四十六ガ合併シテ General-Feuerkasse トナツタ。此組合ハ公立ニシテ、はんぶるぐ市ハ特ニ一ノ役所ヲ設ケテ其事務ヲ管理セシメタ。此公立火災組合ヘ加入スルト否トハ市民ノ自由デアルガ、此組合ニヨリテ保險ヲ附セラレザル家

20) Liebig, a. a. O., S. 13, 14.

21) Domizlaff, a. a. O., S. 2, 3.

屋ニ對シテハ抵當權ヲ設定スルコトヲ得ザルコトトシタルガ故ニ、間接ニ加入ヲ強制シタ譯デア  
ル。組合員ハ最高一萬五千まるく迄契約スルコトヲ得レドモ、組合ノ引受クル額ハ建造物價格ノ  
七割五分ヲ限度トシ、残りノ二割五分ハ組合員自身ヲシテ其危險ヲ負擔セシメタ。組合員ハ加入  
ニ際シ一千まるくニ付キテ一まるくノ割合ニテ加入金ヲ支拂ヒ、且ツ年々ニ一千まるくニ付キ四  
分一まるくノ掛金ヲナサネバナラヌ。填補資金ハ罹災後四週間ヲ經テ支拂ハルケレドモ之ハ專  
ラ再築ニノミ使用セネバナラヌ。而シテ此填補金ハ火災發生毎ニ各組合員ニ割當テ其契約ニ應ジ  
テ徵集スルノデアアル<sup>22)</sup>。故ニ此仕組ハ之ヲ原始的火災保險ト云フモ差支ガナイ。

此ノはんぶるくノ公立火災保險組合ノ仕組ハ其成績良好ナリシガ故ニ、ふりいどりつひ・ある  
へるむ Friedrich Wilhelm ハ一六八五年べるりん、けるん、及ビふりいどりつひ・あるだノ市  
長及ビ議員ニ對シテ、之ト同様ノ制度ヲ設ケンコトヲ教書ヲ以テ提議シタ。乍併之ハ遂ニ實行ス  
ルニ至ラナカツタ。蓋シ當時ノべるりん其他ノ市民ハ罹災填補ニ充ツベキ賦課金ヲ以テ租稅ト同  
様ニ一種ノ負擔デアルト思フタカラデアアル。次テあるへるむ一世亦同様ノ計劃ヲ立テ屢々市民  
ノ反對ヲ受ケタガ遂ニ一七八年ニ至リ其努力ノ結果顯レテ、べるりんニ一ノ公立火災保險所  
Société が設立セララルコトトナツタ。此保險所ノ制度ハ大體前述ノはんぶるくノ公立火災組合ト  
同様ノ方法ヲ採用シタガ只市民ニ加入ヲ強制シタ點ニ於テ大ニ異ル所ガアツタ。<sup>23)</sup>之ヨリ前、ある  
むな Altona ニ於テハ既ニ(一七二四年)一ノ強制的火災保險所ガ設立セラレタガ、殊ニべるりん  
ノ保險所成立以來此制度ハ相踵イテ獨逸各地ニ設立セララル様ニナリ、佛蘭西ニ於テモ之ト同様

22) Ehrenberg, a. a. O., S. 37; Liebig, a. a. O., S. 17, 18.

23) Domizlaff, a. a. O., S. 4, 5; Liebig, a. a. O., S. 18, 19.

ノ組織ヲ以テ *Caisse des incendies* ガ各地ニ設ケラレタ<sup>24)</sup>

### 三

是等獨逸ニ於ケル公立火災保險所設立ノ事情ヲ見ルニ、其設立ハ人民ガ火災保險ナルモノノ經濟上ノ作用ヲ了解シ其必要ナルコトヲ認知シタルヨリ出デタルニハアラズシテ、寧ロ國家ガ財政上并ビニ行政上ノ必要ヨリ之ヲ設立セシメタノデアル。詳言セバ國家ハ一ハ火災ニヨリテ納稅資格者ノ減少シ財政上ニ支障ヲ來サンコトヲ防グガ爲メ、又一ニハ火災ニヨリテ人民ノ離散シ前述ノ寄附費 *Brandbettel* トナルノ風俗ヲ改メンガ爲メニ此制度ヲ設ケタノデアル。故ニ此保險所ニ加入ヲ強制セララルモノハ納稅資格者ニ限り其資格ナキモノニハ加入ノ義務ヲ課サナカツタ。又保險所ノ給付スル填補金ハ専ラ再業費用ニ使用セシメ其他ノ目的ニ使用スルコトヲ禁シタノデアル<sup>25)</sup>。又此保險所ノ制度ハ地方的ノモノデ其事業ノ範圍甚ダ狹カツタカラ今日ノ火災保險經營ノ原則ヨリ見レバ極メテ不完全ナルモノト云ハナケレバナラス。故ニ其後獨逸ニ於テ現代の火災保險會社ノ營業ヲ許可シテ以來、一時此公立保險所ノ事業ハ困難ナル狀態ニ陷ツタガ、彼モ亦事業ノ方法ヲ改良シテ現代の保險ノ仕組ヲトルニ至ツテ又健全ナル狀態ニ回復スルコトヲ得、一九一〇年ニハ獨逸帝國ニ尙四十九ノ公立保險所ガ存在シテオツタ<sup>26)</sup>。

### 四

獨逸ノ學者ハ概ネ海上保險ノ濫觴ハ伊太利ニ在リ火災保險ノ搖籃ハ獨逸ニアリト稱シテ居ル<sup>27)</sup>。蓋シ前述ノほるしゆたいんノ火災ぎるど及ビはんぶるぐノ火災組合ヲ以テ火災保險ノ起源ナリト

24) Ehrenberg, a. a. O. 3. 38.

25) Liebig, a. a. O., S. 20, 21.

26) Manes, Versicherungswesen. 2 Aufl. S. 357, 359.

27) Domizlaff, a. a. O., S. 1; Manes, a. a. O., S. 351.

看做セルガ故ニ斯ク稱スルノデアル。勿論火災ぎるどハ火災保險類似ノ作用ヲナシタモノデアリ、又火災組合ハ原始的ナル火災保險デアルト見做スコトヲ得ルノデアルガ、併シ今日廣ク世界各國ニ行ハレテ居ル火災保險ハ獨逸ノ是等ノ制度ヨリ發達シタモノデナク、寧ろ、前述ノ如ク、英國ニ於テ發達シタモノデアル。現ニ今日獨逸ニ於ケル火災保險會社ハ勿論ノコト其各公立火災保險所ノ行ヘル事業モ亦皆英國火災保險ノ模倣デアアル。故ニ余ハ之ヨリ英國ニ於ケル現代の火災保險成立ノ事情ヲ述ベナケレバナラス。

はんぶるくノ醸造家ガ Feuerkontrakt ヲ設立シテヨリ七十五年ヲ經タル一六六六年ノ九月二日、倫敦ニ大火起リ四晝夜燃エ續キテ一萬三千ノ家屋（全市家屋ノ八割五分以上）ヲ燒キ拂ヒ、燒失面積四百三十六にえかニ及ビ、財産ノ損害當時ノ價格ニテ約一千萬磅乃至一千二百萬磅ト計算セラレ住ムニ家屋ナキモノ二十萬人以上ニ達セリト云フ<sup>c25)</sup>。蓋シ當時ニ於テハ有史以來最大ノ火災デアツタ。故ニ倫敦市ガ之ガ爲メニ受ケシ打撃ハ極メテ甚ダシク後七年ヲ經タル一六七三年ニ至リテモ尙千有餘ノ家屋ハ復舊セラレズニアツタト云フニヨリテモ其被害ノ程度ヲ推察スルコトヲ得ルデアラウ。現代の火災保險ノ萌芽ハ倫敦人が此大火ヨリ得タル教訓ヨリ生ジタルモノデアル。即チ此大火後火災ニヨル損害ヲ免ルベキ幾多ノ計劃考案セラレ、翌一六六七年ニハにこらす。ばるぼん Nicholas Barbon ト云ヘル人ガ家屋ノ火災ニ因ル損害ヲ填補スルノ事業ヲ創メタ。此事業ハ相當ノ成績ヲ舉グルコトヲ得タカラ、彼ハ一六八〇年ニ “The Fire Office” ト名ヅクル會社ヲ設ケタ。此會社ハ營利事業デアツテ、加入者ハ木造家屋ナラバ千分ノ五、石造家屋ナラバ千分

28) Ketcham, Fire Insurance (Wisconsin 1916) p. 24.

29) Zartman, Yale Reading in Insurance, Fire Insurance. p. 3.

ノ二半ノ保險料ヲ拂込メバ、罹災ノ時直チニ契約上ノ金額ノ支拂ヲ受ケ保險料以外何等ノ負擔ガナカツタ<sup>30)</sup>。之レヲ前述ノ獨逸ニ於ケル制度ト比較スルニ甚ダシク其趣ヲ異ニシテ居ル。即チ獨逸ニ於テハ國家ノ指導ヲ俟ツテ成立シ、英國ニ於テハ一個ノ營業トシテ成立シタルノデアル。之ハ固ヨリ英獨其國民性ヲ異ニスルニ由ルノデアルガ、又一ニハ當時既ニ英國ニ於テハ海上保險ガ盛行ハレタカラ其影響ヲモ受ケタノデアル。即チ當時ハ倫敦ていむす河附近ノ珈琲店ニ於テ個人保險業者ガ海上保險營業ヲ營ムデオツタ時代デアルカラ、<sup>31)</sup>恐ラクハ彼ばるばんハ此ノ海上保險營業ニ眞似テ其火災保險事業ヲ初メタノデアラウ。

ばるばんガ火災保險會社ヲ設立シタル年ノ翌年、倫敦市ヘにうばるど Newbold ノ建策ニ從ヒ、自ラ特別基本金ヲ設ケ百年以内任意ノ期間ヲ以テ火災保險ノ契約ニ應ズル事業ヲ開始シタ。ばるばん<sup>32)</sup>ノ造リ方ガ海上保險ニ模倣シタルモノトスレバ、此造リ方ハ契約期間ノ長キ點ニ於テ生命保險ニ模倣シタルモノト見做スコトヲ得ルデアラウ。乍併此事業ハ僅カニ二年經續シテ廢止セブレ、ばるばんノ事業モ亦間モナク倒レタ。蓋シ是等ニ於テハ未ダ保險料率ガ合理的基礎ニヨリテ算出セラレテキナカツタカラデアル。然ルニ之ニ次イテ起リタルモノハ“Friendly Society”ト名ヅクル相互的火災保險組合デアル。此組合ハ殆ド一百年間存續シタ。此組合ノ規則ニヨレバ加入者ハ毎年石造又ハ瓦煉家屋ト木造家屋トニヨリ千分ノ五乃至千分ノ十ノ保險料ヲ支拂ヒ、且ツ次回以後ノ保險料支拂ノ擔保トシテ此外尙五ケ年分ノ保險料ヲ加入ト同時ニ供托シ、尙組合カ損害填補金ニ不足スルトキハ各自契約高百磅ニ付キ三十志迄支拂フ義務ヲ負擔スルノデアル。<sup>32)</sup>故ニ組合ノ經營者ハ事實上自ラ何等ノ危險ヲ負擔セズ、只右ヨリ左ヘ資金ノ收集分配ヲナスニ過ギナイ

30) Zartman, ibid. p. 3; Ehrenberg, a. a. O., S. 38.

31) Martin, History of Lloyd's and Marine Insurance in Great Britain. pp. 60. sqq.

32) Zartman, ibid. p. 4; Ketcham, ibid. p. 26; Ehrenberg, a. a. O., S. 38. 39.

ノデ前述ノばるばんノ方法トハ此點ニ於テ異ル所ガアツタ。

此ノ“Friendly Society”ニ次イデ設立セラレタルモノハ、今日尙存在スル“Hand in Hand Fire Office”デアル。此會社ハ一六九六年ニ設立セラレタルモノデ其組織ハ“Friendly Society”ニ似テ居ルガ、併シ之ヨリモ保險料負擔ヲ輕クシテ供托金ヲ多クシ、且ツ家屋價格ノ一割五分ハ加入者自ラヲシテ危險ヲ負擔セシメタ。即チ其保險料ハ石造家屋ハ保險金額一千五百磅迄ハ千分ノ一、一千五百磅以上ハ千分ノ二、木造家屋ハ一千五百磅迄ハ千分ノ二、一千五百磅以上ハ千分ノ四ニシテ二千磅以上ノ保險ハ引受ヲ拒絶シタ。而シテ加入ノトキノ供托金ハ石造家屋ニアリテハ保險金額ノ千分ノ五、木造家屋ニアリテハ千分ノ十デアル<sup>33)</sup>。カク供托金ヲ多クシタルハ之ヲ追加保險料拂込ノ擔保ニ充ツルト共ニ、經營者ノ曰論見ニヨレバ之ヲ有利ニ放資シ保險金ノ支拂ハ主トシテ之ヨリ生ズル利益ヲ以テ充テ、尙餘剩アレバ加入者ニ分配スルノ計劃デアツタカラデアル<sup>34)</sup>。而シテ此會社ハ最初其事業ヲ倫敦及其附近ノ地域ニ限リテ營業シテオツタガ、其經營宜シキヲ得タルガ故ニ健全ナル發達ヲ遂ゲ一七三二年ニハ其積立金五萬五千磅ニ達シタ位デアル。故ニ此會社ノ成功ハ世人ヲシテ火災保險ナルモノハ有利ニ之ヲ經營シ得ルモノデアルトノ信念ヲ抱カシメ、臆テ相互のナラザル營利保險會社ノ設立ヲ促シタ<sup>35)</sup>。

以上述べタル英國ノ各火災保險事業ハ、皆其營業範圍ヲ倫敦及ヒ其附近ニ限定シタルノミナラズ、其保險料ハ何等合理的ナル方法ニヨリテ算出セラレズ、且ツ其契約モ長期契約ノ趣旨ヲ以テ供托金ヲ徵收スルノ方法ヲ採ツタ。故ニ此狀態ニ於ケル火災保險ハ地方的ノモノナルト共ニ、未ダ合理的の料率ニヨリテ經營セラルル現代の保險デハナカツタノデアル。(未完)

33) Ehrenberg, a. a. O., S. 39.

34) Zartman, ibid, p. 5.

35) Ehrenberg, a. a. O., S. 39.